



「書齋館」

#Shosaikan / Omotesando-TOKYO text: Nagano Hiroko

一歩足を踏み入れると、アンティークの醸し出す雰囲気、時に時が止まったかのような錯覚に陥る。今年4月にオープンした書齋館は、骨董通りの近くにひっそりとたたずむ大人の空間だ。最初に入る部屋の中央には、昔の小学校で使用されていた年代物の椅子と机が置かれ、壁には世界中から集められた文具アンティークがディス

レイされている。右へ抜けると、広々としたスペースには世界中から集められた芸術品とも言える一流の万年筆が並べられ、左へ抜けるとまさしく書齋と言えるカフェスペースが広がっている。

アメリカのフィッシャーズホテルの椅子、ニューヨーク近代美術館永久保存モデルのテーブルなどの珍しい家具を集めたインテリアもさることながら、書齋館オリジナルの陶器や大正から昭和初期のグラスなど細部までこだわりが感じられる。また、全刊揃った『アサヒグラフ』など2万5000

点にのぼる蔵書コレクションも楽しめる。

オーナーの赤堀正俊さんは「お客さまには書齋のようにくつろいでいただけたらと思っています。万年筆を買う人のためのスペースですので、カフェで商売をしようとは思っていません。逆にあまり混雑するのも困りものです」と語る。

欧米諸国を飛び回るうちに、モノや空間に対する研ぎ澄まされた感覚が身についた赤堀氏は「100年の歴史を持つ建物にある欧米のカフェは、それ自体で歴史の重みのある文化です。日本ではどちらかとい



カフェボールからアイデアが生まれる

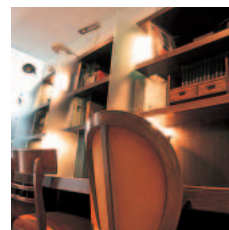
Photo: Nakamura Tohru (mermaid)

うと、商売という感じがします。コーヒーを高くするのは家賃が高いからなど聞くとがっかりしますね」と苦笑する。

自分のポリシーを貫き通すという人が少なくなった時代だからこそ、書斎館のような空間は貴重だ。「ルイ・ヴィトンのバッグから100円のボールペンを出す若い日本人女性は滑稽です。遊び心を忘れないことです。万年筆を使うと手を洗わなくてはいけませんが、その一見ムダに見える行為の合間に、新たなアイデアが閃いたりすることが多いのです」



万年筆は、イタリアの一流ブランド、ピスコンティやアウロラなど世界中から1500本以上が揃えられている。



メニューは、飲み物オンリー。水出しアイスコーヒー(800円)は、冷たい水を使って長時間かけて抽出したコーヒーを使用。



住所: 港区南青山5-13-11 パンセビル1階
TEL: 03-3400-3377
営業時間: 11:00am ~ 20:00pm(無休)



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp